

## 「筑波大学体育科学系紀要」寄稿規定

(平成 19 年 6 月 20 日)

平成 19 年度紀要・研究業績委員会

### I 和文規定

1. 本誌に寄稿できる論文の筆頭著者は、本学の (a) 体育系の教員、研究員、準研究員 (b) 体育系教員の指導を受けている人間総合科学研究科在籍の後期課程院生、(c) 体育系教員の指導を受けた後期課程修了または単位取得退学した研究生、および (d) その他紀要・研究業績集委員会が認めた者、とする。
2. 寄稿内容は、体育系関連分野における総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告とし、完結したものに限る (Ⅲ (付記) 参照)。
3. 原稿の採択は、紀要・研究業績集委員会において決定する。総説、原著論文、実践研究、および研究資料の審査にあたっては、紀要・研究業績集委員会が原則として本学体育系の 2 名の教員に査読を依頼する。なお、専門領域上、適切な査読者がいないと判断された場合には、外部者に査読を依頼することができる。
4. 依頼総説、特集、報告は紀要・研究業績集委員会が寄稿を依頼する。依頼原稿には査読を行わない。
5. 本誌の発行回数は、原則として年 1 回とする。原稿の提出時期および発行時期は、紀要・研究業績集委員会において決定する。
6. 原稿は、原則として、A4 判の用紙にワープロで印字し (1 頁 800 ~ 1000 字)、オリジナル原稿 1 部とそのコピー 3 部を提出する。本文はひらがな現代かなづかいとし、外国語をかな書きにする場合には、カタカナにする。
7. 原稿は、一篇につき、図表・抄録を含めて、刷り上がり 10 頁以内を原則とする (すべてを文字として換算すると 14,000 字程度)。
8. 図表は、原則として、刷り上がり 2 頁以内とする。
9. 図表原稿はそのまま印刷されるので、白黒の明瞭な原図または写真が望ましい。図中の文字や数字は原則として欧文とする。図版の中による縮尺を考慮すること。
10. 図表は、それぞれ 1 枚ずつに区分し、必ず通し番号をつけ、4 部提出する。図の 4 部はそれぞれ番号順に一括し、本文とは別に包装する。オリジナルの図 1 部には、図外の余白ないし図の裏面に、番号、上下の印、および筆頭著者名を書き込む。他の 3 部には番号のみを記載し、A4 判の台紙または原稿用紙に貼って提出するか、不鮮明とならない限り、A4 判の用紙にコピーしたものを提出してもよい。図の題と説明文 (原則として欧文) は別紙に番号順に一括する。表には A4 判の用紙を用い、個々に題と説明 (原則として欧文) をつけ、本文に添付する。図表の挿入箇所は、本文中および本文の欄外に、該当する番号によって指示する。
11. (1) 引用文献は、原則として著者名の A・B・C…順に通し番号をつけ、本文の最後一括する。  
(2) 本文中での引用方法は、引用箇所の後に 1,2,8,10-14) のように、該当する文献番号を肩字でつけることとする。

例 1 登録……という成績を報告している (1,3,10)。

例 2 最近の縦断的研究成果 (5-7,9,12-15) によると……

- (3) 引用文献の記載要領は、原則として単行本の場合には、著者、西暦年号 (かっこに入れる)、書名、発行社名、発行場所、頁数 (始頁-終頁) の順に、著者が複数で編集者がいる単行本やプロシーディングなどの場合には、著者名、題名に続けて、和文では、(編) の後に編集者名を、そして「 」内に書名を、欧文では、(Ed.) の後に編集者名を、そして (In) の後に書名を記載する。雑誌の場合には、著者名、西暦年号 (かっこに入れる)、題目、雑誌名、巻数、頁数 (始頁-終頁) の順とする。著者名のイニシアル、雑誌略称の後には原則としてピリオドをつけない。

#### 単行本やプロシーディングの場合

例 1 奥田拓道 (1984) : 肥満. 化学同人, 京都, pp. 22-29.

例 2 American College of Sports Medicine (1986): Guidelines for Exercise Testing and Prescription. Lea & Febiger, Philadelphia, pp. 53-71.

例 3 若林満 (1982): 組織開発とキャリア開発. (編) 二村敏子ら「組織の中の人間行動」, 有斐堂, 東京, pp. 318-333.

例 4 Atal BS (1989): Speech coding and human speech perception. (Ed.) EIsendoom BAG and Bouma H (In) Working Models of Human Perception. Academic Press, London, pp. 101-125.

## 雑誌論文の場合

例1 松浦義行(1990): 中・高年期における体力低下傾向の検討. 筑波大学体育科学系紀要 13: 195-205.

例2 Taylor HL, Buskirk E, and Henschel A (1979): Maximal oxygen intake as an objective measure of cardio-respiratory performance. J Appl Pphysio18: 73-80.

12. 注をつける場合は、本文中のその箇所の右肩の上に、注1)、注2) のように通し番号をつけ、本文の末尾と文献表の間に一括して番号順に記載する。脚注にするか、本文中の段落間、あるいは章末に記載することも可能である。
13. 原稿の表題頁に、題目・著者名、学系外の著者の所属機関名(和文および英文)、および原著論文・実践研究・研究資料・総説・特集・報告の別と分冊希望の有無を、2頁に英文による題目・著者名(ローマ字)、および原著論文・実践研究・研究資料には英文の抄録(250語以内)とキー・ワード3~5語を記載する。この後に、必要に応じてさらに他の欧文あるいは和文の抄録(および題名)を記載してもよい。次頁から本文、注、文献の順に記載し、表、および図の題と説明文を添える。

## II 欧文規定

1~5. 和文規定に同じ。

6. 原稿は、欧文とし、A4判、パイカ、ダブル・スペースでワープロで印字する(1頁200-250語)。

7~12. 和文規定に同じ。

13. 原稿の表題頁に、欧文による題目・著者名(ローマ字)、本学体育系外の著者の所属機関名(和文および英文)、および総説・原著論文・実践研究・研究資料・特集・報告の別を、2頁に英文による題目・著者名(ローマ字)、および総説・原著論文・実践研究・研究資料には英文の抄録(250語以内)とキー・ワード3~5語を記載する。この後に、必要に応じてさらに他の欧文あるいは和文による抄録(および題名)を記載してもよい。次頁から本文、注、文献の順に記載し、表、および図の題と説明文を添える。なお、事前にネイティブ・チェックを受けることが望ましい。

## III (付記) 寄稿原稿の種類(「体育学研究」寄稿の手引きを改変)

1. 「総説」は、特定の研究領域に関する主要な文献内容の総覧、あるいは特定の領域で寄稿者が行った研究の概説・集大成などであるが、その記述は単なる羅列でなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つことが必要である。また、体育系関連諸分野における国内外の研究動向の紹介、評論、研究上の疑問や、あるいはこれまでの研究論文に対する批評や疑問を基にした重要な仮説・問題提起なども総説に含める。必ずしもその妥当性が検証されている必要はないが、十分に論理的であり、その仮説の組み入れによる研究・実践上の有効性、および追試等による立証の可能性が期待されるものであることが望まれる。論文の構成や見出し語は、内容に応じて適切なものを用いる。

なお、総説は、紀要・研究業績集委員会が寄稿を依頼することがある。この「依頼総説」には査読を行わない。

2. 「原著論文」は、科学論文としての内容と体裁を整えているもので、未発表のデータに基づき、新たな科学的な知見をもたらすものであることが必要である。論文の構成は、問題提起、目的、方法、結果、考察、結論、文献、英文抄録の各部分から成り立っていることが必要である。ただし、人文系、社会系、自然系では論文構成にちがいががあるので、論文の構成や見出し語はそれぞれの研究領域に応じて適切なものを用いる。
3. 「実践研究」は、体育系関連分野の実践現場からの貴重な情報をもとにした研究で、たとえば指導法に関する実用的研究や、スポーツ選手を事例的に分析した研究などが含まれる。論文の構成は、「原著論文」に準じる。
4. 「研究資料」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、客観的な資料として価値を認められるものである。この場合、2の原著論文に必要な見出し語や、それに相当する内容のすべてを含む必要はないが、先行関連研究とのつながりのなかで、その資料を提供することの意味が明らかにされ、資料そのものの説明が十分になされていることが必要である。論文の構成は、「原著論文」に準じる。
5. 「特集」は、紀要・研究業績集委員会が適切と判断した特定の内容に関する寄稿を、本学体育系の教員、準研究員、および紀要・研究業績集委員会が認めた者に依頼する。
6. 「報告」は学内・体育系内からの研究助成(河本体育科学奨励賞、栗原基金研究助成、学内プロジェクト、学系内プロジェクト)を受けた研究について、その内容を簡潔にとりまとめたものである。研究助成を受けたプロジェクトの研究代表者に紀要・研究業績集委員会が寄稿を依頼する。